

令和7年度 大学院入学試験（一次）

鍼灸学研究科 鍼灸学専攻 博士後期課程

専門科目 【問題】

受験番号	氏名

1. 脈穴の種類や特徴・性質について記しなさい。また脈穴に現れる反応について説明しなさい。

2. 背部俞穴における意義を記しなさい。また第11胸椎～第1腰椎の領域にある背部俞穴に刺鍼した場合に、下痢や腹痛が軽減した。その機序を説明しなさい。

受験番号	氏名

1. 感覚の分類（特殊感覚・内臓感覚・体性感覚）について、感覚名と受容器についてそれぞれ説明しなさい。

2. 味覚障害について種類と症状を挙げ、主な原因について説明しなさい。

令和7年度 大学院入学試験（二次）

鍼灸学研究科 鍼灸学専攻 博士後期課程

専門科目 【問題】

受験番号	氏名

1. 五要穴の中で臓腑に関連する経穴を選び、臓腑とどのような関連があるかを記載しなさい。
また腧穴にある実の反応について説明しなさい。

2. 背部俞穴における臨床的意義を記しなさい。また第 11 腰椎～第 2 腰椎の領域にある背部俞穴に刺鍼した場合に、腹痛や便秘が軽減した。その機序を説明しなさい。

明治国際医療大学 大学院 博士後期課程
令和7年度 入学試験（二次）
専門科目（鍼灸臨床医学） 令和7年3月8日

受験番号	氏名

1. ストレスによる自律神経の反応について説明しなさい。

2. 鍼刺激による自律神経の反応について説明しなさい。

令和 7 年度 大学院入学試験（一次）

鍼灸学研究科 鍼灸学専攻 博士後期課程

外国語 【問題】

明治国際医療大学 大学院 博士後期課程

令和7年度 入学試験（一次）

英 語 令和6年10月19日

受験番号	氏名

以下の英文を和訳しなさい。

著作権の都合上、問題文は掲載しておりません。

令和 7 年度 大学院入学試験（二次）

鍼灸学研究科 鍼灸学専攻 博士後期課程

外国語 【問題】

明治国際医療大学 大学院 博士後期課程

令和7年度 入学試験（二次）

英 語 令和7年3月8日

受験番号	氏名

以下の英文を和訳しなさい。

著作権の都合上、問題文は掲載しておりません。

令和7年度 大学院入学試験（一次）

鍼灸学研究科 鍼灸学専攻 博士後期課程

専門科目 【出題の意図・解答例】

受験番号	氏名

1. 脈穴の種類や特徴・性質について記しなさい。また脈穴に現れる反応について説明しなさい。

<出題の意図>

伝統鍼灸の治療に用いる脈穴の基本的知識と、脈穴の反応について、基本的な知識を理解できているかを評価する。

<解答例>

脈穴の種類や特徴・性質について

脈穴には、経穴（正穴）、奇穴、阿是穴がある。経穴は十四經脈上にあり、名称や部位が定まっている。奇穴は十四經脈になく、名称や部位、主治症が定まっている。阿是穴は名称や部位は定まっていないが、病態と深く出現したり、治療点となる部位である。要穴には五要穴、五行穴、四総穴、八会穴、八脈交会穴、交会穴、下合穴がある。経穴の性質については、五要穴もしくは五行穴を説明する。

五要穴には原穴・郄穴・絡穴・募穴・背部俞穴がある。

原穴は、原氣（元氣）が多く集まるところである。臟腑の病に原穴を用いるとしている。

郄穴は、骨と筋肉とのすきまの部にあり、急性症状の反応点・診断点・治療点と活用できるとしている。

絡穴は、本經脈が他の經脈と連絡するために分支する所で、その經脈の虚実が現れやすい所で、表裏する經を同時に治療する作用があるので、慢性症状の反応点・診断点・治療点として用いられる。

募穴は、臟腑の気が集まる所で、全て胸腹部（陰の部）にある。背部俞穴は、臟腑の気が注ぐ所で、全て背腰部（陽の部）にある。募穴と背部俞穴は、いずれも臟腑の病の診断点・治療点に用いられる。

五行穴（五俞穴）には、井穴、榮穴、俞穴、經穴、合穴があり、經脈の五行的性質と考え合わせて、五行説に従って用いる。

井穴は脈氣に出る所、手足の末端穴にあたる。この穴は心下満を主る。陰經は木、陽經は金に属する。

榮穴は脈氣に溜る所、末端穴から2番目にあたる。この穴は身熱を主る。陰經は火、陽經は水に属する。

俞穴は、脈氣に注ぐ所、末端穴から3番目にあたる。この穴は体重節痛を主る。陰經は土、陽經は木に属する。

經穴は、脈氣に行く所、上肢は手関節や前腕下部、下肢は足関節や下腿下部にある。この穴は喘咳寒熱を主る。陰經は金、陽經は火に属する。

合穴は、脈氣に入る所、上肢は肘関節付近、下肢は膝関節付近にある。この穴は逆氣して泄するを主る。陰經は水、陽經は土に属する。

脈穴に現れる反応は、圧痛、硬結、陷下（陷凹）、膨隆、緊張、軟弱、冷え、熱感、乾燥、湿潤など種々ある。虚の反応には、発汗、軟弱（弛緩）、陷下（陷凹）、圧痛で喜按などがある。実の反応には、硬結、緊張、膨隆、圧痛で拒按などがある。臨床上では、体表が軟弱で深部に硬結を示すなど、虚の反応と実の反応が混在する場合がある。

2. 背部俞穴における意義を記しなさい。また第11胸椎～第1腰椎の領域にある背部俞穴に刺鍼した場合に、下痢や腹痛が軽減した。その機序を説明しなさい。

<出題の意図>

背部俞穴における意義の理解を確認することと、背部俞穴への刺鍼の機序を具体的に説明できるかを評価する。

<解答例>

背部俞穴は、臟腑の気が注ぐ所で、全て背腰部（陽の部）にあり、厥陰俞以外は臟腑名と同じ名前が付けられており、臟腑の病の診断点・治療点に用いられる。また現代医学の観点から、背部俞穴の位置は関連痛、特定の内臓諸器官と脊髄神経の関係、脊髄に入りする交感神経の入路や脊髄における節後線維の存在部位と

の関連などが考えられる。

「第 11 胸椎～第 1 腰椎の領域にある背部俞穴に刺鍼した場合に、下痢や腹痛が軽減した。」ことから、体性-内臓反射における機序が考えられる。小腸はおよび大腸は第 9 胸椎から第 1 腰椎まで（もしくは第 10 胸椎から第 2 腰椎まで）の交感神経支配レベルであることから、第 11 胸椎～第 1 腰椎の領域にあるのは背部俞穴の脾俞、胃俞、三焦俞であり、腸と関連する背部・腰部に刺鍼することで、脊髄レベルでの反射で交感神経が刺激され、腸運動が抑制する。また下痢の多くは腸管の蠕動運動が亢進していることが多く、腸と関連する腹部や腰背部のデルマトーム上の経穴（脾俞、胃俞、三焦俞、大腸俞など）を用いることが効果的である。

受験番号	氏名

1. 感覚の分類（特殊感覚・内臓感覚・体性感覚）について、感覚名と受容器についてそれぞれ説明しなさい。

<出題の意図>

鍼灸臨床研究の基盤となる、感覚（特殊感覚・内臓感覚・体性感覚）の分類、受容器、伝導路といった基礎医学の知識を、正確かつ体系的に説明できるかを評価する。

<解答例>

1) 特殊感覚（感覚名：受容器：説明）

- (1) 視覚：網膜受容器：光刺激を物の形・色として認識する感覚。視力・視野・色覚
- (2) 聴覚：外耳、中耳、内耳：音の音波を受容器で電気信号に変換され脳に伝わる
- (3) 嗅覚：鼻粘膜：ニオイを感じる感覚。
- (4) 味覚：味蕾：食べ物に含まれる化学物質を感じ、（甘味、塩味、酸味、苦味、うま味を感じる。
- (5) 平衡覚：内耳：直線運動、回転運動、体のバランスを感じる。

2) 体性感覚

- (1) 表在感覚：皮膚：触覚、圧覚、痛覚、温度覚を感じる。
- (2) 深部感覚：筋紡錘、腱器官：筋肉、関節の動きを感じる。

3) 内臓感覚

内臓痛覚：内臓：内臓の痙攣、炎症、拡張などに生じる痛み。

臓器感覚：内臓、化学受容器：便意、尿意、空腹、満腹など状態変化を感じる感覚。

2. 味覚障害について種類と症状を挙げ、主な原因について説明しなさい。

<出題の意図>

基礎医学の知識を、実際の臨床的な事象（例：味覚障害）の病態生理と結びつけ、深く考察し説明できる能力を評価する。

<解答例>

1. 種類と症状

1) 量的異常：

- (1) 味覚減退・消失：（症状）味が薄いまたは全くわからなくなる。
- (2) 解離性味覚障害：（症状）甘味、塩味、酸味、苦味、うま味のうち特定の味だけがわからなくなる。

2) 質的異常：

- (1) 自発性異常味覚：（症状）口に何も入っていないのに苦味などが常に感じる。
- (2) 異味・錯認：（症状）食べ物の本来の味が異なって感じられる。
- (3) 味覚過敏：（症状）薄味を濃く感じる。

2. 原因：

亜鉛欠乏性味覚障害、薬剤性味覚障害、心因性味覚障害、ウイルス感染（感冒、新型コロナウイルス感染など）、口腔疾患、全身疾患、加齢など

令和7年度 大学院入学試験（二次）

鍼灸学研究科 鍼灸学専攻 博士後期課程

専門科目 【出題の意図・解答例】

受験番号	氏名

1. 五要穴の中で臓腑に関連する経穴を選び、臓腑とどのような関連があるかを記載しなさい。
また腧穴にある実の反応について説明しなさい。

<出題の意図>

伝統鍼灸の治療に用いる腧穴の基本的知識と、腧穴の反応について、基本的な知識を理解できているかを評価する。

<解答例>

五要穴には原穴・郄穴・絡穴・募穴・背部俞穴があるが、臓腑に関するのは原穴と募穴・背部俞穴である。原穴は、原氣（元氣）が多く集まるところである。臓腑の病に原穴を用いるとしている。募穴は、臓腑の気が集まる所で、全て胸腹部（陰の部）にある。背部俞穴は、臓腑の気が注ぐ所で、全て背腰部（陽の部）にある。募穴と背部俞穴は、いずれも臓腑の病の診断点・治療点に用いられる。

腧穴に現れる反応は、圧痛、硬結、陥下（陥凹）、膨隆、緊張、軟弱、冷え、熱感、乾燥、湿潤など種々ある。実の反応には、硬結、緊張、膨隆、圧痛で拒按などがある。

2. 背部俞穴における意義を記しなさい。また第11腰椎～第2腰椎の領域にある背部俞穴に刺鍼した場合に、腹痛や便秘が軽減した。その機序を説明しなさい。

<出題の意図>

背部俞穴における意義の理解を確認することと、背部俞穴への刺鍼における腹痛や便秘に対する機序を具体的に説明できるかを評価する。

<解答例>

背部俞穴は、臓腑の気が注ぐ所で、全て背腰部（陽の部）にあり、厥陰俞以外は臓腑名と同じ名前が付けられるており、臓腑の病の診断点・治療点に用いられる。また現代医学の観点から、背部俞穴の位置は関連痛、特定の内臓諸器官と脊髄神経の関係、脊髄に入り出す交感神経の入路や脊髄における節後線維の存在部位との関連などが考えられる。

「第11胸椎～第2腰椎の領域にある背部俞穴に刺鍼した場合に、腹痛や便秘が軽減した。」ことから、体性-内臓反射における機序が考えられる。大腸は第11胸椎から第2腰椎までの交感神経支配レベルであることから、第11胸椎～第2腰椎の領域にあるのは背部俞穴の脾俞、胃俞、三焦俞、腎俞であり、大腸と関連する背部・腰部に刺鍼することで、脊髄レベルでの反射で交感神経活動が抑制され、腸運動が促進する。また交感神経活動の抑制を目的に腹部や腰背部のデルマトーム上の経穴（脾俞、胃俞、三焦俞、腎俞、大腸俞など）を用いる。

1. ストレスによる自律神経の反応について説明してください。

<出題の意図>

鍼灸臨床研究の基盤となる、感覚（特殊感覚・内臓感覚・体性感覚）の分類、受容器、伝導路といった基礎医学の知識を、正確かつ体系的に説明できるかを評価する。

<解答例>

ストレスには、身体的ストレス、心理的ストレス、社会的ストレスなどがあり、ストレスを受けると感情と関係する扁桃体、自律神経（交感神経と副交感神経）の調節を行う視床下部などの中枢神経系に反応が起こる。

ストレス状態では、視床下部から「CRH（副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン）」が分泌され、それより下垂体前葉から「ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）」を分泌され、それにより副腎皮質から「コルチゾール」が分泌される。

また、交感神経末端からのノルアドレナリンの分泌とともに副腎髄質からアドレナリンが分泌され交感神経が活性化する。

交感神経の活性化により心拍数上昇、血圧上昇、瞳孔散大、消化機能抑制、免疫機能抑制などの自律神経反応が生じる。

2. 鍼刺激による自律神経の反応について説明してください。

<出題の意図>

基礎医学の知識を、実際の臨床的な事象（例：味覚障害）の病態生理と結びつけ、深く考察し説明できる能力を評価する。

<解答例>

鍼刺激により、皮膚や筋膜などが刺激されると A_δ・C 線維により脊髄後角に伝わり、脊髄視床路を介して脳へ上行します。脳へ伝わった刺激は、視床下部への伝わり交感神経・副交感神経に影響を与える。

体幹部（Th1-L3：デルマトーム）への比較的強度な鍼刺激は、脊髄の中間外側核（交感神経の起始ニューロンが存在する領域）に入力される。その結果は、交感神経の活動を活性化させる。

上肢（C1-C8：デルマトーム）、下肢（L4-S1：デルマトーム）への鍼刺激は、脊髄後角から脊髄視床路を介して脳へ上行し延髄迷走神経背側核や孤束核に入力される。その結果は、副交感神経の活動を活性化させる。

令和7年度 大学院入学試験

鍼灸学研究科 鍼灸学専攻 博士後期課程

外国語 【出題の意図】

一次募集（令和6年10月19日実施）

自立した研究者として国際的な学術研究を遂行するために必須となる、極めて高度な英語の読解能力を評価することを目的としている。また、鍼灸の作用機序の科学的解明に必須となる基礎医学的な専門用語の正確な理解力に加え、複雑な生理学的・神経科学的な概念を深く理解し、考察できる能力を評価することを意図している。

二次募集（令和7年3月8日実施）

自立した研究者として国際的な学術研究を遂行するために必須となる、極めて高度な英語の読解能力を評価することを目的としています。また、鍼灸の作用機序の科学的解明に必須となる基礎医学的な専門用語の正確な理解力に加え、循環器系の構造に関する高度な生理学的・解剖学的な概念を深く理解し、それらの知見を鍼灸研究の科学的考察に応用できる能力を評価することを意図している。